

## ひとり一人の素顔と向き合おうから

### ＝新しく出会った子どもたちとの3ヶ月＝

3年担任 上野 芳樹

今年、新しく担任することになった3年A組の子どもたち。西小の中ではあまり問題のない学年と言われていた。逆に私には印象も薄くよく分からなかった。

4月に子どもたちと出会ったときの感じは悪くなかった。3年生らしい明るさと無邪気さがあり、いい一年を過ごせそうな手応えを感じた。

けれど、日が経つにつれて、一人ひとりの子どもの実像、人間関係に振り回されている子どもたちに悲しみが見えてきた。

朝のけんこう観察をすると、ほとんど声が出ないM子ちゃん。実は、小さい時耳の病気で片方が聞こえず、そのせいで言葉の発達が遅れてしまった。そのハンディがコンプレックスになっているようだった。

養護学校に通う姉を持つK君。朝のスピーチで家族紹介をしたとき、K男は姉のことをぬいちゃべった。姉のことを素直に語れないつらさを思った。

〔1〕 Rという子

あまり知らない子どもたちの中でこの子だけは、よく知っていた。集会などで集まる場で、いつも落ち着かず、まわりの教師から注意される姿をよく見かけていたし、担任からも気になる子としてよく名前が出ていたからである。

学期が始まって、2、3日もすると、子どもたちからの苦情のラッシュが始まった。

「先生、R君が何もしてんのにたたかった。」「R君、何もしてんのに机の本落とさった。」「

家庭訪問に行っても、保護者から「あの子がいるので心配なんです。」などという話も聞かされた。

しかし、授業中のRの姿は、確かにじつとしていられないが、敏感に私のお話に反応してくるし、子どもらしいおもしろい考えを。ハツと出してくる。周りの子どもから苦情が出るたびに、Rを呼んで訳を聞くのだが、正直に本音を語ってくる。自分からしたときは、「ちよつとやってみたかったん。ぼくの頭ちよつと線、切れてるん」などと素直に認め、事実と違うときは、「ぼくたたいてへんで。取りに行こうとしたら、ぶつかっただけやで。」などと。

見かけのちゃらんぽらんさとながらぬのだが、ノートの字はいいねだし、忘れ物もない。日記もとても子どもらしい文を綴ってくる。

「バッテリーセンター」

K R

月曜日にバッティングセンターに行きました。はじめにぼくがやりました。

「なかなかうてへんな。」

「ちよつとかしてみろへたくそやな。」

「じゃあお父さんはできんのか。」

「できるぞー。かんたんやんか。こんなの。」

「ぜんぜんできてないやんか。うそつき。」

と言つたらお父さんは打つてしました。

「もうおわたやんか。いややな。」

「もう一回しいな。」

ぼくははりきつてしました。

「よーし。」

「あいた。」

がんばりすぎてボールがあたまにあつた。

「わらうな。」

「おとうさんしいな。」

「いやや。」

そうゆうと、おとうさんのやきゅうをしました。

「もうつかれたで帰ろう。」

「うんもう帰ろうな。」

「また行きたいな。」

「うん。」

またこんども行きたいです。

K R

土曜日にそろばんに行きました。帰るとちゆうにおたまじゃくしや、ほねえびをつかまえました。

「帰つてからなんかつかまえに行こうな。」

「うん行こう行こう。」

「ぼくもひまやで行くわ。」

「じゃあ帰つたらすぐにこうみんかんにあつまろう。」

「ばけつももつて行こうな。」

とぼくも計くと弘克君が言いました。

帰つてからこうみんかんに行きました。おたまじゃくしをつかんでいたのに、うしがえるが川にいました。

「うしがえるや。」

弘克君が大声でさけびました。

「どれどれ みせて。あつた。でかいな。」

「つかまえようか。」

「どうやってつかまえんの。でかいでつかまえられへんのちやう。」

「うしがえるはどんくさいでいじょうぶ。」

「じゃあどんくさがえるやなあ。」

二人で石をなげると水にもぐつて見えなくなりました。しかたがないので帰りました。

「こんどはもっと大きくて20cmのあまがえるを見つけないです。」

そろばんのしけん① K R

そろばんのしけんがありました。かけ算とわり算とみとり算です。しけんだから七〇点より上じやないとすべります。こんどは火よう日です。また点すうのはつびようがあります。はやく点すうはつびようがしたいです。もつていくものもちよつとおもいです。

そろばんのしけん②

いよいよつけかはおつびようの日です。どきどきしました。あんさんのあとの五きゅうの本のつぎにつけかはおつびようをしました。

「はんこのおしとるもんはごうかくやー。」

ぼくはどきどきしてしんぞうがとまりかけました。ぼくはごうかくしているのかわかりません。

「Rー」

「はい。」

ぼくの点数は何点でしょう。

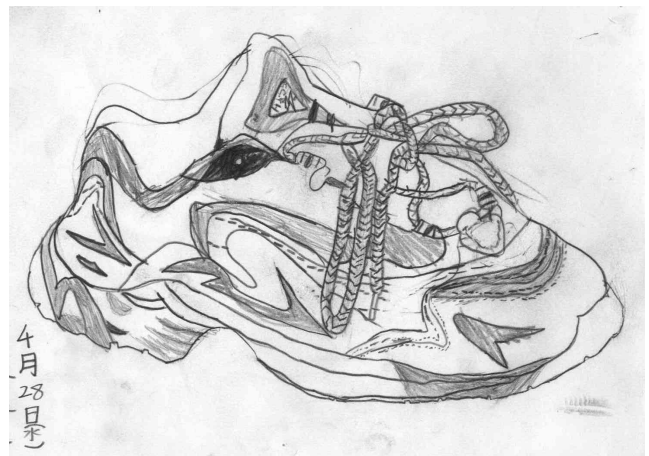
かけ算九〇点。せーふー

わり算九五点。せーふー

みとり算一〇〇点。せーふー

ぜんぶ七〇点より上でした。一番むずかしくて一番にがてなみとり算が一〇〇点だったとは。家に帰ってお母さんに見せると、大よろこびでした。こんどはぜんぶ一〇〇点をとれたらいいんだけど。

図工でくつの絵を描かせたときも、休み時間のチャイムが鳴つても無



心に描き続けていた。

どうも、「いたずらっ子・いじわるつ子R」という虚像ができてしM、子どもたちも親も、その虚像に過剰反応しているのではないかと思うようになった。また、周りの子の中には「R君が……」とRをスケープゴートにしているようなところも見えてきた。

## (2) 女の子たちの屈折した友だち関係

和気藹々とやっているように見えた女の子たちの中にも、低学年からの友だち関係のこじれを引きずっている子どもたちがいた。

4月の家庭訪問のころだった。「今日は、みんなで学校ごっこをして遊びました。楽しかったです。」と書いている日記を読んで「いいなあ。」と思つていたら、実はそのとき、先生役をしていたNという子が罰だと言つてみんなを太い丸太棒でたたいていたという事実を家庭訪問先で母親から聞かされた。その時は親どうしの話で一応収まったということだった

ので、そのままにしておいたのだが、6月に入って、Mという子が「Nちゃん、私だけ仲間外れにしゃる。」と訴えてきた。NとMは、幼稚園の頃からうまくいっていなかったことは母親からも聞いていたので、この機会に十分話し合わせることにした。Nに聞くと仲間はずれにした事実は認めたが、「でも、Mちゃん、私のこと、チビとかむかつくとか悪口いっぱい言いふらしてやる。2年のときもいつも悪口言ってやった。Nちゃんやらが教えてくれやったん。ほんでくやしかったん。」と言う。直接、Mから悪口を言われたことはあるのか？と聞くと、それはいっぺんもない、全部友だちから聞いた話だという。Mに聞くと「私だけとちがう。他の子かて言うてやるのに。」という。かなりこじれた関係になつていふようなので、とりあえず、それぞれこれまでのいやな思いをぜんぶ書いてみてと言つて紙を渡した。

いやだなあと思つたこと K N

わたしは、2年生の時に、Mちゃんにわる口をいわれていました。「むかつく、ちび」という悪口をいわれました。ほかに、E子ちゃんとIちゃんとYちゃんとわたしで帰っている時に、おいかけっこをしたりしながら帰っていました。わたしたちがあそんでいて走っていると、Mちゃんがうしろをむいてわたしたちをにらんで、それから走つて帰っていききました。

Yちゃんと、Iちゃんに、わたしが声をかけても、むしをしました。

わたしがMちゃんをさそわなかつたりゆうは、(帰りに、M以外の子だけ集めてひそひそ話したこと。Mが仲間外れにされたと訴えてきたでぎこと)、MちゃんがNちゃんやR子ちゃんやIちゃん、Yちゃんに、Nのわる口を言いふらしているので、わたしはMちゃんとあそぶのがいやでした。NがMちゃんのそばへ行くと、Mちゃんにげつて、ちがう公園へ行つてしMます。2年生の2学期の時、Mちゃんは、まだNのわる口を言うので、わたしは、帰りになきました。そして、Mちゃんたちと出会つた時に、わたしは、Mちゃんにむかつてこういいました。

「なんで、わたしのわる口を言うの。わたしは、Mちゃんのわる口なんか言つていないのに、なんで言うの。」

とききました。そしたら、Mちゃんは、なにも言わずに帰っていききました。2年の時、わたしは、E子ちゃんとIちゃんからこんなことをききました。E子ちゃんは、田んぼにかさをMちゃんにはめられて、とつとE子ちゃんが言つても、「もうとれへんもん。」といったそうです。Iちゃんも、Mちゃんにかさを田んぼにはめられたと言いました。わたしが、Mちゃんの近くにいくと、Mちゃんは、わたしの方を見て、じつとにらんでいました。それをお母さんやお姉ちゃんに言うど、二人とも、

「ほんまー。いやな子やなあ。」

といました。それをお父さんに言うど、

「もう、あの子とは、あそばんとき。Nのわる口ばつかり言う子やで。」

といいました。そして、しばらくあそぼんといてから、3年生になってから、またわる口を言っていました。3年生でまだいわれて、またなきそうになりました。でもなきませんでした。わたしは、Mちゃんのことあまり好きではありません。2年生のときも、「Nちゃん好き？わたし、きらいやわ。」と言っていたと、だれかわすれたけど、言ってくれました。その時は、とても心にきずがつかまりました。Mちゃんにわる口を2年でも、3年でも言われつづけて、とてもとても心にきずがつかしました。そのときにいやだなあと思いました。これからは、Mちゃんに、Nのわる口を言わないように言いたいと思っています。

K  
M

Nちゃんに、ちよくせつじゃないけど、「ちび」って言ったの、ほんとにごめんなさい。「むかつく」って言ったのもごめんなさい。2年生の時もNちゃんになかまはずれにされたことがあります。それは、とてもいやなことでした。わたしは、その時心にいっぱいきずがつかしました。そして、帰ってから、ぎぶぶぶんをもつてワーワーなきました。その日、お母さんは、Nちゃんの家に行つてそのことをNちゃんのお母さんにゆわはりました。そして家に帰りました。3年生になってからもなまはずれられて、Nちゃんに、なかまはずれしんといつて言いたくても言えませんが。わたしは、みんなとなかよくなりたいたいが、Nちゃんはどうですか？だから、みんなと帰つてるのはいいんですが、まえの日、Nちゃんらーと帰つてる時、Yちゃんが一人で帰つてたから、一人だつたらあぶないから、Yちゃんをまつた。そしてその時Nちゃんがだれかとしやべつてはりました。たぶんそのことは、わたしとYちゃん

んのことだと思いました。そして、わたしのとこにYちゃんがきて、「あー、Nちゃんていややなあ。」と言っていました。わたしは、こう思いました。Yちゃん一人やとさらわれたらあかんから、Yちゃんいっしょに帰ろうつてさそつた。そしていっしょに帰つてました。

Nちゃんとかも、わたしに、あそぼつてさそつてくれたらいいのにはやくなよくなりたいたいです。

いやなこと A Y

2年生のころ、Nちゃんにいやなことやめいれいをされた。私はNちゃんとかえるのがこわくなつてしまいました。

「どぶにはまれ。」

と言われました。私はそのとおりました。そしてあがりました。くつがべとです。いやなことがずつとづきました。どぶにはまったくつをあらいました。そしてまたNちゃんと帰つてるとき、Iちゃんがこけました。ちがでていました。Nちゃんがいました。

「そんなちよつとならだいじょうぶやろ。」

わたしとE子ちゃんが、Iちゃんのところへいきました。私はNちゃんにこくなりしました。「なんてひどい人」と思いました。それから、Nちゃんのいやみをいつてしまいました。

「でも、いじめつてしては行けないんだけどなあ。自分のいやみも言われたらいやだからもうやめとこう。」と思いましたが、いじめは、やめました。でもNちゃんがまだいじめをやらあります。E子ちゃんもいっしょにあそぶのがいやだから、買いもんでこわつています。ほかの人と遊んだら、「いっしょにかえらへんで。」といひます。ほかの人とあそ

んでしまったら、かえりひどくいじめられます。だからいつしよに帰りたいくありません。Mちゃんらあと一回だけ帰りました。楽しくてやさしいです。でもNちゃんとかえると、自分だけおもしろがつています。私はくやくしくやくしくてたまりませんでした。Nちゃんが、くつとかぬいでもたせませす。かばんにすいてうまでもたせませす。私はなきたくてもなけませせん。それから、Nちゃんが「えりちゃんとIちゃんきて。」といつて私だけよんでもらえませんでした。それが5、6回ぐらいつづいています。ほつていかれたこともありませした。2年生の時は、あくまがいたみたいです。3年生は天しがついてるみたいです。ひどいことをかいてごめんなさい。けんかがなくなつたらいいのになあ！

いやなこと FN

一年の時に、Mちゃんにいつもわる口とか言われていつもないて帰つていました。それでちよつとMちゃんのことがいやになりました。二年になつたらないて帰ることはなかつたけど、一年の時わる口とか言われてちよつといやでした。そして、三年生になつてYちゃんとMちゃんと二年生のゆみかちゃんと帰つてるときに「落ちたらしり字」ていわつて、ゆみかちゃんもなん回でもおちたのに奈那が落ちたら、みんなしり字と言うのでなきました。そしてわる口とか言つていたので、Nちゃんが走つて来てくれて、はらがたつたので(わる口を)言いました。そしてぶんだん長がE子ちゃんまん中つていわたつても、ぶんだん長がしらない時に、Mちゃんが

「ごわわたしのせきやで。」

と言つて、E子ちゃんをおしたそうです。その時、わたしは、何も知

りませんでした。そしてR子ちゃんからその話を聞いて、またMちゃんをちよつときらいになりました。まえきらいだつたNちゃんは、いつもないてらたきてくれるので、ぎやくにすきになりました。そして、つぎの日Yちゃんと、Mちゃんがあやまつてくれたけど、Mちゃんのことかやつぱりちよつときらいでした。分団遊びの時(Mが仲間外れにされた時のこと)Mちゃんのことは何もきづきませんでした。

そして、あかねに集まつて国算に行きました。そして、けつきよくお母さんがきて、NちゃんはないてしMました。そして、けつきよくMちゃんはきませんでした。

もうMちゃんとなかNりました。もう奈那はべつにもうみんなとなかよしになつたのでよかつたです。

書いては読み合い、ということを4日ほど続け、これからのことを考へ合つたあと、「また、うまく行かないようだつたら何度でも話し合おう。」と言つて一応終つた。

その後、MとNの関係は以前とはずいぶんよくなつたとMもNも言つている。おそらくまたぶつかるだろうが、そのたび根気よく話し合ひしかないだろう。

そちらの女の子のけりが一応ついたと思つたら、今度は、3年になつて転入してきたU子が「朝、分団で集まる時、5年生の人がいらんで仲間はずれにしやる。今までそんなことなかつたのに」と日記に書いてきた。となりの学級にS子という同じ分団の子がいるので、事実を確かめると「Uちゃん、仲間はずれにされてやる。私も一年の時か

らずつと仲間はずれにされてたん。」という。これはほつておけないと思ひ、5年の女の子たちに事情を聞くと、「反対やで。U子ちゃんが、私らのこと、むかつく、とか五年といつしよにいたらあかんとか、悪口いっぱい言うてやるんやで。3年のS子ちゃんから聞いたもん。」という。そこで、しょう子とU子に話を聞くと、U子はそんなこと一度も言っていないと言ひし、しょう子はU子が言ったという。これも屈折したものがあつたので、二人に自分の思いを書かせた。

S子は、一年からずつと疎外されてきた事実を書いた。

S子  
1年のときからOちゃん（現5年生）とかが朝分団で集まる  
ところにと子がきたらいつもなんかいやなことをいわれま  
す。

こども会るときもいつもHちゃんとかOちゃんとか6年生  
の人とかみんなであそんでS子だけほつとかれて、一人でへ  
やのすみでおかしをたべてます。S子がちかづいたらすぐ  
しゃべつてくれるのは、6年生の人だけで、6年生の人だけ  
はS子をきそつてくれるときがあります。けど、ほとんど  
ほつとかれます。1年生はS子だけでした。帰つてお母さん  
にきいてみると、Oちゃんが一年生のとき、いつもHちゃん  
とNちゃん（現5年生）が手をつないでいたからだつて、お  
母さんがいつてました。しばらくたつてもまだいじめられた  
りこわい顔でみられました。一回お父さんがいつしよに分団  
であつまるところに行つて、Oちゃんとかに

「S子、あんまりいじめたんなよ。」

とか

「なかまはずれにしてんのか。」  
て、ききました。

「してない。」  
と言ひました。

つぎの日からもういじめなかつたけど、子ども会るとき  
は、やつぱり一人でへやのすみっこでおかしを食べていまし  
た。だれもきそつてくれませんでした。まだ分団でS子だけ  
しゃべつてくれませんでした。顔もこわい顔でした。

そしてUちゃんがきてから、まだS子はいじめられまし  
た。けどそのときは、まだUちゃんはいじめられていません  
でした。そしてでんわをかけてUちゃんと遊ぼうとしてた  
ら、はじめOちゃんが出てこつて言ひました。

「あんた、Uちゃんのまえでいばつてんときや。」つて。そ  
したらS子は「いばつてないで。」

と言ひました。そしてつぎの日お母さんに言ひました。はつ  
きり言ひました。

「もういや。」  
とか

「また、Oちゃんがいやなこといわつた。」  
つて。そしたら

「あそこの家、みんなこわいからそうゆう人はほつとき。」  
つてS子はほつときました。そしたら、なんかみんなでしゃ  
べつて、S子はいつともおんなじでしゃべつてくれませんでした。  
した。いやな気持ちでした。

こんどUちゃんがいじめられていました。そのときだけ、みんなS子をいじめてるときよりもっとこわい顔でした。それは、一週間前ぐらいからです。見るだけで、S子をいじめようとしたのかもしれない。そしたらS子をいじめるんじゃないくて、Uちゃんをいじめていました。

その一週間ぐらい前、一回、朝、学校のものところでかばんの赤いところをOちゃんにひっぱられました。そしてものところだとまらせました。そのときからUちゃんがいじめられるようになったとおもいます。ほそい目して、Uちゃんをにらんでました。そのずっとまえUちゃんとS子とYちゃんであそびました。そのゆうがた、S子はYちゃんになかまはずれにされました。(U子の作文・火の用心の時のこと)

YちゃんがS子についていきつていいました。Yちゃんはついてきました。そしたらYちゃんがUちゃんにこっちにかえろつていわつたのがそのきっかけです。

帰ってから書いてきた日記の文

きょう、せんせいとおはなしをしました。UちゃんのこととUちゃんとうえのせんせいとゆきこせんせいで、ほうかごしました。

たぶん、ほとんどS子のおもいちがいでした。「Oむかつく」とか「Hむかつく」とか「5ねんの人と」なんかわすれたけど、そういうなん、ぜんぶおもいちがいでした。S子もかんけいあるし、いじめてないけどせきにんだから、Uちゃんにあやまりたいです。ごめんとひとこといいたいです。ぜんぶOちゃんとかにきこうとおもつたけど、おもいちがいでした。ずっとへんなことおもつてたから、おもいちがいました。またUちゃんとなかよくしたいです。一年生のゆうちゃんも、ちよつとはゆいちゃんいややなあといつてたし、しょう子はこまりました。みんなとなかよくしたいです。どうやったらかいけつできるのかな。おしえてください。

どうして、そんなことをしたのかとたずねると、「そう言ったら、五年の人たちが仲間に入れてくれるかもしれないと思つたから」と泣きながら言つた。

まだ3年生なのに、こんなにも人間関係に振り回されている子どもたちの姿に胸が痛む。

私は、ずっと「授業で子どもの可能性を引き出すのが教師の仕事」と考えてきた。それは、今も正しいと思つている。しかし、「いい授業を重ねれば子どもたちは良くなる」というような単純な図式はもはや成り立たない気がする。

授業の追求と併せて、生活綴り方のような子どもの生活や心と直に向き合うような仕事も、もう一方の柱として、今は非常に重要なのではないか。そんな思いを強くしている。